

精密工学会賞 第7回 (2011年度)

受賞者業績紹介

受賞者： 木村 文彦 氏

木村文彦氏は、わが国におけるCADの創成期以来、一貫して計算機支援設計と生産システムに関する研究を行ってきており、形状モデリング、プロダクトモデリング、インパースマニユファクチャリング、ライフサイクルエンジニアリングなどのテーマで、常にこの分野の研究をリードしてきた。最近では、環境に配慮した製品設計や循環型生産の研究をグローバルに展開している。

1974年に東京大学大学院博士課程を修了後、電子総合技術研究所に奉職し、1979年からは東京大学で設計工学および生産システムの研究、教育に従事した。2009年より活動の場を法政大学に移したが、引き続き設計、生産システムに関する教育と研究を継続している。

同氏は、ICPEやCIRPなどの国際会議の組織委員長、プログラム委員長を務めるとともに、IMSなどの国際的なプロジェクトにもリーダーとして積極的に参画し、当該分野の技術の発展、国際化に寄与している。これらの研究に対し、精密工学会のみならず、日本機械学会、情報処理学会から多数の論文賞を受賞している。さらに、STEPなどの国際的な標準化について日本代表として活動しており、その貢献に対して2011年に藍綬褒章を受章している。

以上のように、木村文彦氏がこれまでに果たしてきた設計工学・生産システム分野発展への功績とこれに対する国内外の評価は極めて高く、工学的・工業的貢献は極めて大である。

1974年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
1974年 工業技術院電子技術総合研究所パターン情報部
1979年 東京大学工学部精密機械工学科助教授
1987年 同 工学部精密機械工学科教授
1995年 同 大学院工学系研究科精密機械工学専攻教授
2009年 法政大学理工学部機械工学科教授、東京大学名誉教授
精密工学会フェロー、工学博士